

学生を対象とした業務説明について

鷺尾 直紘¹

¹近畿地方整備局 浪速国道事務所 調査課 (〒573-0094 大阪府枚方市南中振3-2-3)

近年の建設業界は、需要が高まっているものの、労働者の減少が続いている。近畿地方整備局では、若手職員が少ない状況となっており、若手職員をはじめとする担い手不足など、人的リソース不足が顕著で社会問題となっている状況下において、如何に高い志を持った若手の人たちに私たちの職場の魅力を伝え選んでもらうかが課題であると考えている。今回、私は若手職員として、学生の目線に立ち、学生が興味を持つためにはどのような内容を、どのように伝えればいいのかを考え、ひとりでも多くの同世代の学生を私たちの職場に迎えたいという思いでプレゼンテーションに参加した。そのとき考えたことや取り組みなどについて報告する。

キーワード 若手職員, 説明会, 人材不足, リクルート

1. はじめに

近年の建設業界は、リニアモーターカー建設、東京オリンピック開催に伴うインフラ整備、相次ぐ震災による復興事業など、需要は高まっているものの、建設業界に関わる労働者の減少が続いている。平成10年に455万人いた建設業界の労働者は、平成24年には335万人になり、約3割の労働者が減少している(図-1)。また、就業者の高齢化及び若手の人材不足が進行している現状があり、このままでは、建設業界の存続に不可欠な技能の継承も困難になりかねない状況となっている(図-2)。¹⁾

近畿地方整備局では、労働者の人数が減少しており(図-3)、それに加えて若手の人材が少ない状況となっている。特に18歳から34歳までの人数が少なく、35歳以上の人数が多くなっている(図-4)。

建設業界は新たに物をつくる、ものづくりの仕事であり、このような状況下において、ものづくりの担い手として、如何に高い志を持った若手の人たちに、近畿地方整備局の魅力を伝え、選んでもらうかが大きな課題であると考えている。

そこで、私は若手職員として、学生の目線に立ち、学生が興味を持つためには、どのような内容を、どのように伝えればいいのかを考え、ひとりでも多くの同世代の学生を私たちの職場に迎えたいという思いで業務説明会に参加した。そして、その結果を考察と共にまとめた。

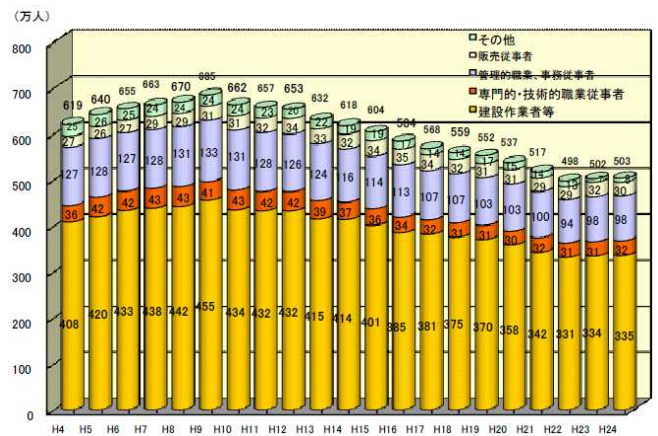


図-1 建設業界の労働者減少 出典：総務省『労働力調査』

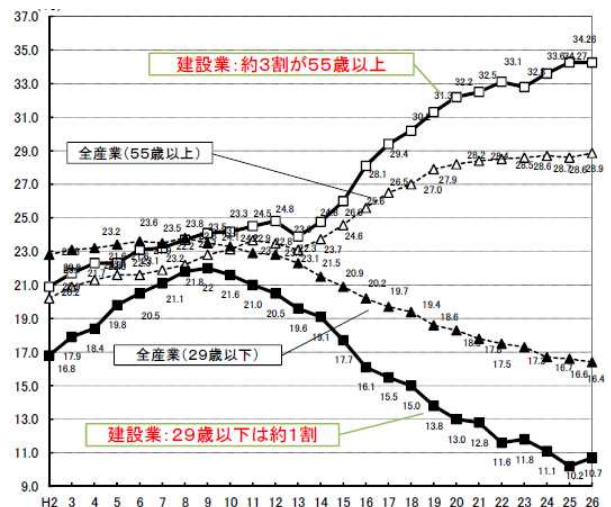


図-2 建設業界の高齢化 出典：総務省『労働力調査』

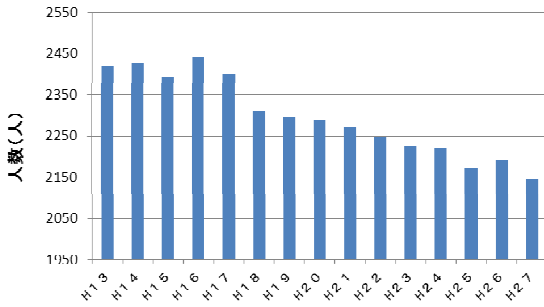


図-3 近畿地方整備局の人口推移 (平成27年度)

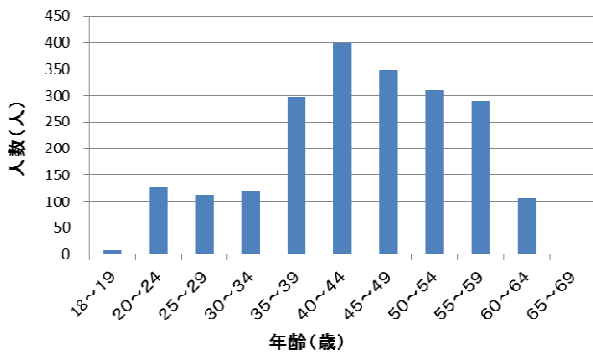


図-4 近畿地方整備局年齢別人口 (平成27年度)

2. 若手人材を確保するための取り組み

若手の人材を確保することは次のような意味がある。

先輩職員は、若手職員に仕事を教えることで、知識や技術を継承できるとともに、経験を言語化することを通じて、自らの成長にも繋がる。

若手職員も、先輩職員から豊富な知識や経験をもとに、業務の取り組み方などを教授してもらうことができるため、若手の人材を確保することは、双方にメリットがある。

(1) 近畿地方整備局での取り組み

学生が説明会等に参加することは、進路を決定する上で重要なことである。近畿地方整備局のホームページに記載されている取り組みとして、平成27年度及び平成28年度に実施した説明会は、技術系を対象とした公務研究セミナーや現場見学会などがある(表-1)。官庁訪問や個別業務説明会は、大学4年生の公務員試験の受験を希望する人を対象としたものであり、進路を決めようとしている大学3年生以下の人を対象とした説明会は、学生のための「官庁公開フェスティバル2016」と公務研究セミナーとなっている。

上記の取り組み以外に、学生を対象としたインターンシップがある。私も大学3年生の夏に近畿地方整備局の

表-1 平成27年度及び平成28年度に開催した説明会²⁾

No.	説明会名	対象者
1	学生のための「官庁公開フェスティバル2016」	
2	公務研究セミナー	技術系
3	近畿地方整備局 官庁訪問	高卒者・社会人
4	近畿地方整備局 官庁訪問	行政・技術系
5	近畿地方整備局 個別業務説明会	
6	近畿地方整備局 現場見学会	大卒程度・技術系
7	近畿地方整備局 女性向け現場見学会及び座談会	

表-2 インターンシップのスケジュール

	8月26日	8月27日	8月28日	8月29日	8月30日	9月2日	9月3日	9月4日	9月5日	9月6日	
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
午前	・相生有年道路建設課説明会 ・参加	・加古川バイパスリニューアル事業の説明 ・加古川/口交差点の課題整理(法庫、等場など) ・実習内容の整理	・道路の維持、修繕について ・橋梁修繕について ・災害対応について	・10:00~11:00 ・実習演習(午) ・各会参加	・相生有年道路事業の説明 ・姫路北バイパスの説明	・現場 9:00出発 災害機械説明 (防災課 横山)	・姫路河川国道事務所の河川事業について (桂塚川、加古川)	・実習内容の整理	・実習内容の整理	・発表の練習	・実習内容の整理
午後	・国土交通省の道路事業について ・姫路河川国道事務所の事業内容の説明	・現場 13:00出発 加古川バイパスリニューアル事業(西井ノ口など) 加古川/IC工事	・現場 姫路第二種出張所 加古川バイパス道路/パトロール	・実習内容の整理	・実習内容の整理	・現場 13:00出発 相生有年道路 姫路北バイパス	・実習内容の整理	・現場 13:00出発 桂塚川(外未種除等)	・実習内容の整理	・実習発表会 PPTによる実習内容の説明(30分程度)	

インターンシップに参加し、業務について勉強した。このインターンシップに参加した理由は、公務員の業務内容について、知りたいと思ったからである。2週間で道路と河川の現場視察や、業務について説明を受けることで、近畿地方整備局の出先機関である事務所での技術系公務員の業務について、少しずつ知ることができたため、進路を選ぶ一助となった(表-2)。

(2) 学生を対象とした業務説明会

近畿地方整備局は、若手人材を得るための取り組みの一環として、学生を対象とした業務説明会を行っている。近畿地方整備局の職員が、学校に赴き、学生の前で直接説明をするものである。

これまで、学生対象の説明会は係長以上のベテラン職員が参加し、説明することがほとんどであった。ベテラン職員が説明することのメリットは、ベテラン職員の豊富な知識を活かしたプレゼンテーションができることであり、学生の多種多様な質問にも対応することができる。一方で、ベテラン職員の話す専門用語が学生に伝わらない可能性があり、学生が本当に知りたいことが伝わっていない恐れがあると考えられる。学生の気持ちに近い、若手職員が説明に加わることによって、学生の求めている説明が行うことができると考える。

3. リクルーターへの挑戦

(1) 若手職員としてできること

私は、就職活動を控えた学生に対して、近畿地方整備局の取り組みを伝えることで、多くの学生に近畿地方整備局を進路として希望してもらうためのリクルーターと

して、学生を対象とした業務説明会（以下、業務説明会）で発表する機会を得た。平成28年1月14日に大阪府立高等専門学校に赴き、学生に対して、企画課が近畿地方整備局の業務内容全般について説明を行い、次に大阪港湾空港整備事務所が港湾の業務について説明を行い、最後に浪速国道事務所が道路の業務について説明を行う予定となっていた。

発表者として、学生の前で近畿地方整備局の魅力を伝えるにあたって、自分にしかできないことは何かと考えた。学生に興味をもってもらうためには、学生が関心をもっていることや、気になっていることについて説明を行うべきである。私はインターンシップに行った経験から勉強になったことや、学生時代の関心や疑問などを思い起こし、説明内容に加えることにした。

具体的には、発注者と受注者（コンサル・ゼネコン）の関係やそれぞれの道路事業を行う上での役割についての説明である。

私は、就職活動を行っていた時、企業説明会では自社に関する紹介はあるが、他機関との関係まで説明してくれるところはなく、公務員、ゼネコン、コンサルの関係についての情報が乏しかった経験から、学生が進路を選択するためには、公務員、ゼネコン、コンサルの関係や違いに関する情報が必要であると考えた（図-5）。

次に、国家公務員と地方公務員の違いについて説明を行うこととした。

具体的には、国家公務員の魅力を伝えるとともに、近畿地方整備局の事業規模の紹介をすることや、国、都道府県、市町村で対象とする道路の規模が違うことについての説明である。

(1)発表に向けた準備

リクルーターとしての発表に向けて私の所属する事務所で説明会（以下、事務所説明会）を行い、いろいろな視点から意見をいただいた。説明会で出た質問には主に次のようなものがあった。

「道路をつくる場所はどのように決まるのか」、「入省前と入省後のイメージの違いは何か」、「なぜ公務員の仕事を選んだのか」、「学生時代に身につけておいたら良いことは何か」（表-3）。

質問の内容を、進路に関する質問、業務内容に関する質問、福利厚生に関する質問、就職のアドバイス、その他に分類した（図-6）。その結果、「なぜ公務員の仕事を選んだのか」といった、進路に関する質問や業務内容に関する質問が多く、「学生時代に身につけておいたら良いことは何か」といった、就職のアドバイスに関する質問が少なかった。

(2)発表での工夫点

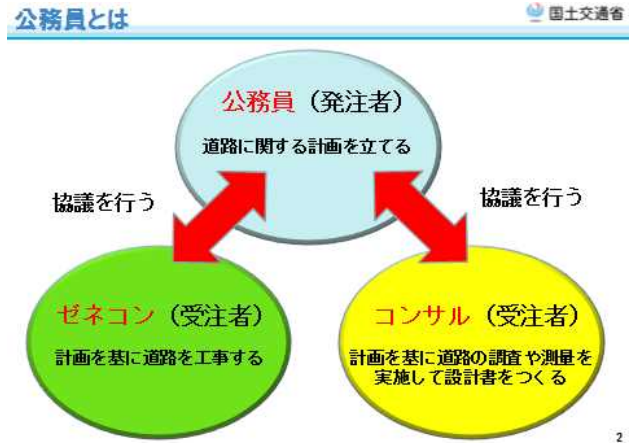


図-5 説明会のスライドの例

表-3 事務所説明会の質問内容

No.	発表会の質問	質問ジャンル
1	市と国の事業規模の差は	進路
2	道路をつくる場所はどのように決まるのか	仕事内容
3	入省前と入省後のイメージの違いは何か	その他
4	公務員の仕事はなぜ選んだのか	進路
5	学生時代に身につけておいたら良いことは何か	就職のアドバイス
6	転勤はどれだけあるのか	福利厚生
7	人数が少ないが道路は自分で設計するのか	仕事内容
8	仕事を行い達成感があったことは	仕事内容
9	道路をつくるに際してどんな仕事があるのか	仕事内容
10	受注者と発注者の関係を教えてほしい	進路
11	どうして国交省を選んだのか	進路
12	他の事務所はどこにあるのか	福利厚生
13	転勤はどんな場所になるのか	福利厚生

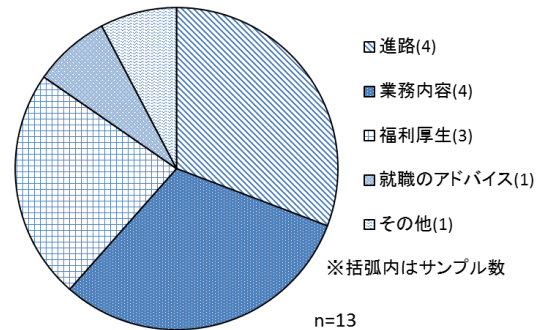


図-6 事務所説明会の質問内容

事務所説明会の結果を踏まえて、業務説明会で工夫すべき点を考えた。まず、学生に理解されやすい言葉を選んで説明を行うことである。例えば「供用」を「通れるようになった」と言い換えるなど、内容が頭に入るように工夫した。

二つ目に、働いたことに関する実体験を話すことである。これは、事務所説明会で質問があった内容に、業務内容に関するものが多かったからである。また、学生が入省すると経験することになる係員の業務について、少しでもイメージを持ってもらうために実体験を話すことにした。

三つ目に、私が学生時代に疑問に思っていた点について、同じように学生は疑問に思っているのではないかと考え、受注者と発注者の関係などについて説明するように工夫した。

最後に、国と県や市の違いを理解してもらうため、浪速国道事務所の事業については、細かい内容を説明するのではなく、事業のスケールの大きさについて説明した。また、国の事業のスケールを知ってもらうことを目的として、事業概要について説明する際に、事業費を強調することにした。

表-4 学生からの質問内容

No.	発表会の質問	質問ジャンル
1	機械の分野はどんな仕事をしているのか	業務内容
2	単身赴任はあるのか	福利厚生
3	単身赴任の場合は住居は確保されるのか	福利厚生
4	資格は必要か	就職のアドバイス
5	資格を取得するときに会社からの援助はあるのか	福利厚生
6	企業等に就職していても国交省に再就職することは可能か	福利厚生
7	面接ではどんな質問が出たのか	就職のアドバイス
8	大学院に行ってから公務員になることで不利になることはあるのか	進路
9	誰でも説明会の発表者となりうるのか	業務内容
10	なぜ公務員を選んだのか	進路
11	どの分野を勉強すべきか	就職のアドバイス
12	一日どれくらい勉強したのか	就職のアドバイス
13	公務員試験を始めた時期はいつか	就職のアドバイス
14	大学進学か公務員になるかで迷っている	進路

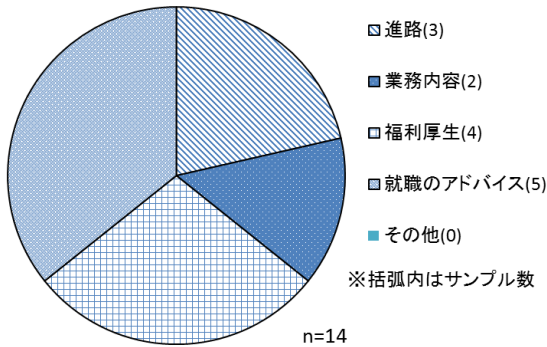


図-7 学生からの質問内容

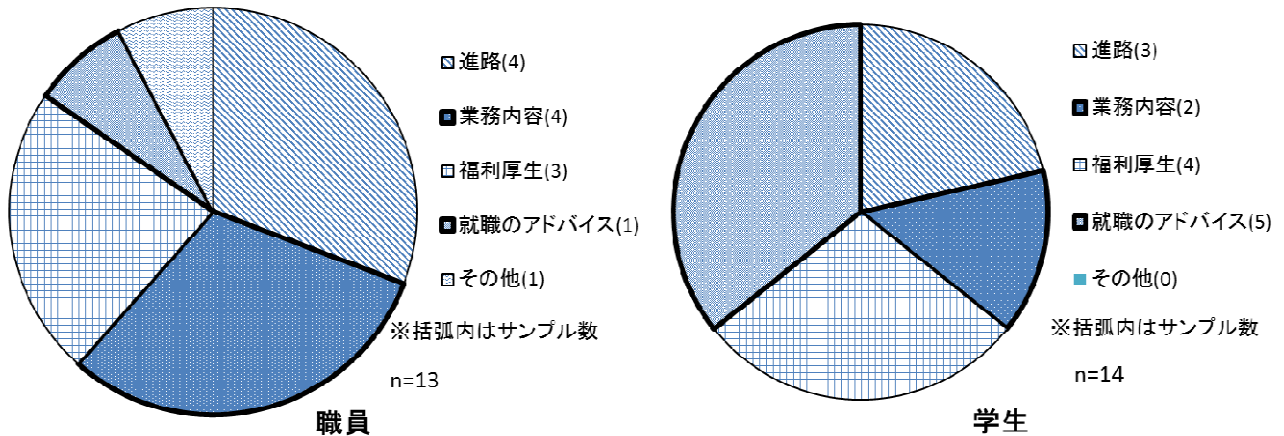


図-8 職員と学生の質問内容の比較

4. 発表後の学生の反応

当日の業務説明会は、40人ほどが座れる教室で、プロジェクターを用いてスクリーンに説明資料を映し出し、説明した。参加した生徒は30人ほどであった。説明後に質疑応答の時間を設けており、業務説明会で学生から出た質問の内容は主に次のようなものがあった。

「機械の分野はどんな仕事をしているのか」、「単身赴任はあるのか」、「資格は必要なのか」、「大学院に行ってから公務員になることで不利になることはあるのか」(表4)。

業務説明会で出た質問の内容から、分類分けを行った(図7)。学生からの質問には、「単身赴任の場合住む場所は確保されているのか」といった福利厚生に関する質問や、「一日に公務員試験の勉強は何時間くらいしたのか」といった、就職のアドバイスに関する質問が多く、事務所説明会で出た質問の内容とは異なった結果となった。職員の質問内容は業務内容に関するものが多く、それに対して、学生の質問は業務内容に関する質問が比較的少なかった。一方で、職員から就職のアドバイスに関する質問が少なく、学生から就職のアドバイスに関する質問が多かった(図8)。就職後の職員と就職前の学生の間には考え方に差があることがわかる。

学生からの質問の中には、「なぜ公務員を選んだのか」、「大学院に行くか、公務員になるかで迷っている」といった公務員と他の進路との比較に関する質問があり、公務員とゼネコン・コンサルの違いといった自分が疑問に思っていた点を説明したことについて、学生の求めている情報と、説明押した内容の方向性としては共通点があったと考える。

業務内容に関する質問よりも公務員試験の質問が多かったことから、業務の実体験を話すよりも、就職活動の実体験を話した方が、学生の関心にあったプレゼンター

ションになったと考察する。ただし、リクルーターとして学生に対し、近畿地方整備局の魅力について説明するためには、説明内容の中に業務内容を加えることは必要不可欠である。就職活動に関する情報と、業務内容に関する情報の両方を学生に伝えることが重要であると考え

る。
次に、浪速国道事務所の事業について、細かい内容を説明するのではなく、事業のスケールの大きさについて説明した点だが、説明後に事業についての質問がなかったことから、生徒は事業について細かい内容まで求めているのではないかと推察する。一方で学生の興味を引きつけ、関心を引き出すような発表ができるようにしなければならぬと感じた。

5. 今後の課題

私たちがリクルーターとして活動するにあたり、学生が就職活動を始める段階で、自分に合った進路なのかを判断してもらう必要がある。そのためには、学生が自分の進むべき進路を決定するために、学生にとって興味関心のある情報を提供することが大切である。

学生の興味関心のある情報を得るには、最近まで学生だった若手職員にアンケートをとって、学生が求めているのはどんな情報なのかを知ることで、その内容について発信していくことは有効な手段であると考え

る。
業務説明会で出た質問を記録し蓄積することで、学生が興味関心を持っていることを分析し、次回の業務説明会の説明内容に盛り込むことができる。なお、今回の業務説明会で学生から出た質問から、福利厚生に関する情報や就職活動に関する情報に関心があり、説明会ではそういった内容を盛り込むことで、学生の疑問の解消に繋がると考察する。学生の期待に応えた説明会を行うことで、以前にも増して説明会が評判となり、学生の参加人数が増えることで、より多くの高い志を持った若手人材が、就職先として近畿地方整備局を希望することが期待できる。

業務説明会で出た質問の中には、「資格を取得するときに会社からの援助はあるのか」という質問があった。資格を取得した経験のあるベテラン職員だからこそ、答えることができる質問がある一方で、「公務員試験を始めた時期はいつか」といった若手職員が答えることのできる質問もあることから、ベテラン職員と若手職員の両者が説明会に参加することが重要であると感じた。

今回、私は若手職員のリクルーターとして業務説明会に参加して、伝えるべきこと及び伝えたいことを考え、限られた時間で発表を行ったが、このことは業務において説明する際に必要なことであり、私自身の説明技術の向上につながるものであったと考える。また、今回の発

表を通して、建設業界の人材不足の深刻さについて知ったことから、ものづくりの担い手として若手人材を迎えることの必要性を感じた。私はこの経験を通じて、説明会等のリクルートの場に若手職員が参加することは、意味のあることであり、積極的に参加すべきであると考え

参考文献

- 1) 国土交通省HP：当面の建設人材不足対策 (http://www.mlit.go.jp/report/press/totikensangyo14_hh_000368.html)
- 2) 国土交通省近畿地方整備局採用サイト：[\(http://www.kkr.mlit.go.jp/recruit/\)](http://www.kkr.mlit.go.jp/recruit/)